

はじめに

右手にシヨケラ（人身）、左手に金剛杵（こんごうしよ）をもった腕が六本ある青面金剛（しようめんこんごう）を主尊とする庚申塔が越谷市七左町の寺院・観照院にある。越谷市に現存している青面金剛像としては珍しいタイプの像容なので詳しく調べた。

青面金剛像の類型

腕が六本ある（六臂二ろつび二の）青面金剛像は、一般的には合掌型と剣人型（けんじんがた）に大別され、その他、いくつかの亜種が報告されている。

合掌型

中央の両手で合掌。残りの四本の手で、法輪・弓・矢・三叉鉞（さんさぼこ）などを持っている。



①

写真①は森西川自治会館横の墓地内（越谷市増森）にある合掌型青面金剛像庚申塔。江戸前期・貞享四年（一六八七）造立。この庚申塔は青面金剛像が陽刻されたものとしては越谷市最古。

剣人型

左の右手で、シヨケラと呼ばれる人身（じんしん）の髪をつかみ、右の左手で剣を持っている。残りの四本の手で、法輪・弓・矢・三叉鉞（さんさぼこ）などを持っている。



②

写真②は大聖寺（越谷市相模町）にある剣人型青面金剛像庚申塔。江戸後期・天保十年（一八三九）造立。この庚申塔は、名工とうたわれた草加宿の石工・青木宗義作。

亜種

その他合掌型の亜種として岩槻型と越谷型の二種類が報告されている。

## (一) 岩槻型

合掌型の青面金剛像でありながらシヨケラ（人身）を持っている（写真③）



③

写真③は小曾川公民館脇（越谷市小曾川）にある岩槻型青面金剛像庚申塔。江戸中期・正徳四年（一七一四）造立。

## (二) 越谷型

④ 越谷市恩間にある勢至堂の越谷型青面金剛像庚申塔。江戸中期・宝暦五年（一七五五）造立（写真



④

岩槻型青面金剛像の亜種として、「越谷型青面金剛像」が存在することを越谷市郷土研究会の秦野秀明氏が突き止め「越谷型青面金剛像庚申塔」という論考を発表している。

越谷型青面金剛について、秦野氏は次のように述べている。

越谷市内には「合掌型」で且つ「人身（シヨケラ）」を持ちながら、享保十九年（一七三四）以降の造立で、「邪鬼」が横に臥して正面を向き、「三猿」は中央の猿以外の左右の猿が正面を向いていない二基の青面金剛像庚申塔が存在する。(1)

(1) 秦野秀明 「越谷型青面金剛像庚申塔」 (<http://koshigayahistory.org/762.pdf>) (二〇一三年十一月十日閲覧)

以上を踏まえたうえで、観照院にある享保八年（一七二三）造塔の青面金剛像庚申塔（写真⑤）を見ていく。

## 享保八年（一七二三）青面金剛像庚申塔

### 石塔

石塔型式は駒型。建立された享保八年（一七二三）は江戸中期にあたる。脇銘は「奉造立供養青面金剛像」「現世安穩後生善所祈所」「享保八歳次」「癸卯」「十一月庚申」



⑤

石塔の正面に刻まれているのは、最頂部の左右に瑞雲に乗った「日月」。その下に青面金剛を表わす梵字・ウーン。正面中央に青面金剛像。邪鬼、三猿。

### 台石

台石には、おとめ・おたつ・おたけ・おさち・おたみ・おさん・おひつ・おまつ……など、女性の名前が刻まれている。刻まれているのはすべて女性の名前(写真⑥)



⑥

観照院には、このほかにも女性だけで建てた庚申塔が三基あることから、この地域、旧・七左衛門村(現・七左町)では、女性の庚申講が、さかんだったことがうかがわれる。

### 青面金剛像

#### (一) 像容



⑦

青面金剛の像容は一面六臂(いちめん・ろっぴ)。顔がひとつで腕が六本。頭にはとんがり帽子をかぶっているように見えるが、これは、怒髪(2)を簡略化して表現したもの。顔の表情は、忿怒相(ふんぬそう)というよりは、しかめっ面、むっとした表情に近い(写真⑦)

(2)怒髪(どはつ)とは、激しい怒りのために逆立った毛髪のこと。

(二) 持物



⑧

左上手に持つているのは法輪。左下手でつかんでいるのは弓。右下手で握っているのは矢。右上手には三叉鉾(さんさぼこ)を持つている(写真⑧)

(a) ショケラ



⑨

右中手ではショケラ(人身)の髪をつかんでいる(写真⑨)。六手の青面金剛は、左手でショケラをつかんでいることが多いので、右手でショケラをつかんでいるのは、事例が少ない。

(b) 金剛杵



⑩

左中手で握っているのは金剛杵(こんごうしよ)。金剛杵(3)をもっている青面金剛像を主尊とした庚申塔は越谷市内では、かなり珍しい(写真⑩)

(3) 金剛杵は、杵(きね)の形をした金属製の法具。中央に柄があり、両端に爪状の刃(鉾)がついている。鉾がみっつに分かれた三鉾杵(さんこしよ)、五つに分かれた五鉾杵(ごこしよ)、鉾が分かれていない独鉾杵(どっこしよ)などがある。

この青面金剛が握っているのは三鉾杵に見えるが、ここでは、金剛杵としておく。

(参考) 三鉾杵



⑪

写真⑪は平安時代（十二世紀）に製造された三鈷杵（さんこしよ）。銅製鑄造鍍金。国の重要文化財。東京国立博物館・法隆寺宝物館で撮影。撮影日は二〇二三年五月十日。撮影許可済。

### むすび



⑫

今回調査した、観照院の享保八年（一七二三）造立の庚申塔（写真⑫）に陽刻された青面金剛像の特徴は、「六臂の青面金剛だが、合掌型でもなく、剣人型でもなく、シヨケラ（人身）の髪を右手でつかみ、三鈷杵（さんこしよ）」と思われる金剛杵（こんこうしよ）を左手に握っている」こと。よって、この庚申塔を「杵人型（しよじんがた）青面金剛像庚申塔」と名づける。

### 参考文献

- 加藤 幸一（二〇〇三）『平成十五年度 出羽地区の石仏 平成二十八年四月改訂』越谷市立図書館所蔵  
秦野 秀明「越谷型青面金剛像庚申塔」(<http://koshigyahistory.org/762.pdf>)（二〇一三年十一月十日閲覧）  
庚申懇話会編（一九九五）『日本石仏事典・第二版』雄山閣  
日本石仏協会編（一九九七）『石仏巡り入門―見方・愉しみ方』大法輪閣  
日本石仏協会編（一九八六）『日本石仏図典』国書刊行会  
日本石仏協会編（一九九五）『続日本石仏図典』国書刊行会  
越谷市史編さん室編（一九六九）『越谷市金石資料集』（市史編さん昭和四十三年度調査報告）越谷市史編さん室